



公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第101号 2016年12月21日 発行

第16回東海北陸作業療法学会を終えて

学会長 寺田 佳世
(石川県作業療法士会 副会長)

平成28年11月26～27日の二日間にわたり石川県地場産業振興センターで開催した第16回東海北陸作業療法学会ならびに日本作業療法士協会設立50周年記念事業を無事終えることができました。今学会では、作業療法士及び作業療法を目指す学生770名、一般来場者350名と多数の方々にご参加頂き、盛大に開催することができました。これも偏に、本学会にご協力を頂いた石川県、金沢市をはじめ、後援、協賛、広告等を頂きました多くの関係各位の皆様のおかげであると心から感謝しております。

また、日本作業療法士協会設立50周年を記念し、大会特別企画として開催しました「日本海最大級の福祉機器展」に出展頂きました61社の機器展示企業ならびにシンポジウムやセミナーの講師をお引き受け頂きました皆様にも主催者を代表してお礼を申し上げます。

さて、今学会では学会が始まって以来最大の144演題が集まり、多くの作業療法士が日頃の臨床成果を発表する機会となりました。そのほか、本県の発祥で30年間継承してきた風船バレーボール大会を石川県レジェンドチームの方々と東海北陸6県士会のご協力により、各県のチーム対抗戦を一般公開のかたちで開催することができました。更に福祉機器展では、多数の地域包括ケア関連職種及び一般県民の方々にご来場頂いたことも総合すると、作業療法の啓発普及に貢献できたのではないかと自負しております。

石川県作業療法士会では、これからも今学会のテーマ「人の暮らし、生きることを創造し実践する作業療法」を肝に銘じつつ障害のある人や高齢者の暮らしを支援し、皆様の元気を保つことができる専門職として、地域に根ざした活動を展開していきたいと考えておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



学会振り返り…

①開会式には石川県、金沢市、県医師会、県理学療法士会、県言語聴覚士会のご臨席を賜り、日本作業療法士協会の中村会長も出席された。



②大会特別企画シンポジウム「人の暮らし生きることを創造し実践する臨床家とは」には、作業療法士のほかにも多くの県民の参加があり、会場は満席になった。



③企業61社による福祉機器展には、作業療法士のほか約350名の県民の来場があり、それぞれに福祉機器の最新情報が得るとともに実際に触れる好機となった。



④風船バレーボール大会は、石川県レジェンドチームと東海北陸県士会7チームの一般公開試合を行い、石川県レジェンドチームが優勝した。



⑤多くの若い作業療法士が演題発表に挑戦し、大変活発なディスカッションが交わされた。



⑥大会運営には、両日で作業療法士や学生ボランティア約300名の協力があった。



運営委員の皆様、本当にありがとうございました。

第30回石川県リハビリテーション風船バレーボール大会開催される

大会委員長 小池 隆行

10月8日(土)、第30回石川県リハビリテーション風船バレーボール大会をいしかわ総合スポーツセンターを会場に開催した。今回の大会は第30回の節目であるとともに(一社)日本作業療法士協会設立50周年にもあたり、作業療法士が勤務する県内の全施設へのご案内、記念表彰や記念品の配布も行った。また(一社)日本作業療法士協会の中村春基会長も来県され、表彰式で選手の方への言葉もいただいた。

【大会の結果】

<一般部門>

優勝：シルバーストーン 準優勝：ゴールドストーン 第三位：青山バルーン

<シルバー部門>

優勝：やわた健康スタジオBチーム 準優勝：やわた健康スタジオAチーム 第三位：ふれあいレッツゴー

<記念表彰>

1. 永年選手賞(当大会に20回以上連続出場されている選手の方)
武岡 憲子様(県中ミレニアム(24回出場))、平野 建次様(県中ミレニアム(23回出場))
2. 特別功労賞(第1回から今大会まで、全ての大会に出場されている施設)
青山彩光苑様、石川県立中央病院様
3. 施設功労賞(当大会に20回以上出場されている施設)
介護老人保健施設 鶴友苑様、介護老人保健施設 和光苑様、金沢こども医療福祉センター様、
恵寿総合病院様、桜ヶ丘病院様、やわたメディカルセンター様

【永年選手賞受賞者へのインタビュー】 担当：藤田隆司(ニュース編集長)

永年選手表彰を受賞されたお二人にインタビューをお願いした。



武岡憲子さん(24回連続出場)

右片麻痺、失語症の方であるが、チームのムードメーカーで、笑顔の絶えない武岡さんに風船バレーボールの魅力は?と聞くと

「わかりやすい。私もできるんです」「勝った時、点数が入った時の喜びがあるから」ときっぱり、やはりスポーツが好きだったのか?と聞くと

「以前は走ることが好きだった。でも今は走れないからこのスポーツに出会えてよかった」と、元来負けず嫌いだっただことも話してくれた。

風船バレーボール以外にも何かしていますか?

「家事を少し。デイケアへ通っている。外へ出て仲

間といることが楽しい。風船バレーのメンバーに会うのが一番。もっと練習したい」と、スポーツをきっかけに生活のモチベーションも上がっているようで、プレー中は常に左手をあげて備え、小柄な体をめいっぱい使って一生懸命プレーしている姿が印象的な方であった。

平野建次さん(23回連続出場)

右片麻痺、失語症の方であるが、インタビューには恥ずかしがりながらも丁寧に答えてくれた。

こんなに長く続けられたのは?と聞くと

「家族のおかげ、リハビリの先生にも感謝」との言葉があり参加している他の施設の方や職員からよく話しかけられていたのはどうしてか?と聞くと

「病気になるって、前に病院でケアワーカーで働いて、覚えてくれている」と嬉しそうに話され、障がいを持った後も仕事に従事し、運転までしていることも教えてくれた。

この大会のために何かしていますか?

「毎日、散歩を1時間」「デイケアで、マシンを使って力をつける。週に2回」と答え、外へ出て活動するきっかけになっていることが伺えた。

平野さんのアタックが決まり予選では全勝でしたが準決勝、3位決定戦で惜しくも敗れ、残念でしたね…と声をかけると

「悔しい。腕をあげんならん」と左手を力強くまげて来年を見据え前向きな言葉が聞かれた。

30年間連続参加しているこの県中ミレニアム。毎年3月頃から月1回ご家族やOTボランティアの協力で練習を行い、年々加齢によりメンバーが減る中、6人揃ったのは大会当日であった。ご家族は「ずっと続けてもらいたいですね」と話され、障がいを持った方、ご家族にとってもこの風船バレーボールがかけがえのないものになっていることがこの取材を通じて感じられた。

連載企画 **第3回** 地域包括ケアシステム構築に向けて

祝♥誕生 加賀市地域リハビリテーション活動支援検討会

介護老人保健施設加賀のぞみ園

リハビリ課・訪問看護ステーション加賀 **中森 清孝**

今年の1月31日、県リハビリテーションセンターと県作業療法士会、県理学療法士会、県言語聴覚士会のご支援とご協力を頂き、「地域包括ケアとリハビリテーション」というテーマでシンポジウムが加賀市で開催された。加賀市地域リハビリテーション活動支援検討会(以下、検討会)の発足は、このシンポジウムが大きな原動力となったことは間違いない。この場をお借りし、改めて感謝を申し上げたい。

検討会の目的は大きく2つある。①自立支援に資する取り組みを重視したしくみ作りを目指す。また、チームの中でリハビリテーション専門職(以下、リハ専門職)の役割を整理し、チームに関わる者がその役割を共通理解すること。②相互の事業所・リハ専門職のつながりをつくり、日々の実践に活かしていくための連携を強化すること。

検討会の内容は、検討会企画委員と事務局(加賀市地域包括支援センター)とで話し合い企画している。これまでの活動として、7月に県立高松病院の

村井千賀先生を事務局が招待し「地域支援事業におけるリハ専門職に期待すること」をテーマに講義・演習を行った。その内容を踏まえ、8月には7月の研修を振り返り、今後の課題整理を行った。10月には「チームケアの中でリハ専門職の役割を理解すること、あり方を検討すること」をテーマに、ICFに着眼したりハ専門職としての提案や助言内容についての気づきを整理する機会を設けた。私個人(OT)として、「ICFを踏まえた生活行為の改善の可能性」をいかに検討会の目的①で発揮していくかが重要な役割であると考え、企画させて頂いた。

検討会は12月と来年2月に1回ずつ開催を予定している。まだまだ動き始めたばかりであるが、検討会として加賀市の中での位置づけを明確化できるよう、市内のリハ専門職の力を合わせて盛り上げていきたい。

※企画委員であるメンバーからのメッセージもご覧頂きたい。



第2回 加賀市地域リハビリテーション活動支援検討会の様子

葵の園・丘の上 **西村 幸盛**

現在、加賀市ではリハ専門職が職種の枠を超えて連携しようと模索している。自分自身も地域で働くセラピストの一人として、一人ひとりが住み慣れた地域で元気に暮らし続けられるような支援を展開していきたい。

加賀市医療センター **大神 潤**

検討会は、今後地域の方の生活を支えるために非常に重要な役割を担っていくと考えている。その中で自分の役割は、急性期～回復期を持つ病院として、退院後住み慣れた場所で快適に生活できるよう、退院後の実生活を見据えたりハビリを提供し、地域の対象者に関わる全ての人につなげる役割があると考えている。

今年もいしかわ介護フェスタに参画

在宅支援部 理事 老健ふいらーじゅ 西谷すずな

10月15日(土)、好天のもと、石川県産業展示館1号館において「第2回いしかわ介護フェスタ」が開催された。今年も、在宅支援部・金沢西支部・恵寿総合病院からの合同で参加した。石川県作業療法士会のブースでは、「コグニサイズ」「和紙と牛乳パックで作る箸置き作り」「認知症と自動車運転について」を提供した。一度に複数人数が体験でき、法則に合わせて脳をフルに働かせ身体を動かすコグニサイズは、ちぐはぐになる動きもたつきに笑いあり、用意した配付資料は70枚では不足であったのが嬉しい悲鳴であった。切る・ボンド付け・折るなど各工程を片手で行う体験をしていただいた箸置き作りでは、どの工程も片手で行う事の困難さを知っていただき、台・押さえなど道具の工夫、動作のコツで出来ることを実感していただくことができた。現介護職や翌週から実習が控えている学生さんからは、「早速職場で利用者さんにやってみたい」との声をいただき、「こんな作業したことない」としり込みされていたりウマチである男性は、夫婦箸置きが完成すると、両手指を開排し「こんなに指が動きやすくなった」と笑顔で示してくれた。箸置き作りをしながら「コグニサイズを



後列左から金田(白鳥苑)、苗山(公立つるぎ)、高間(恵寿)、渡邊(公立つるぎ)、守友(和光苑)
中央列左から長山(サンウェルズ)、永原(城北)、森田(金沢脳外)、西谷(ふいらーじゅ)、岡島(レイクサイド)
前列左から今井(のぞみ園)、高多(金沢脳外)、買手、明福(はまなすの丘)、二木(桜並木)

してTMTをしたら、年齢平均よりうんと良かった」と嬉しい一言をいただける方もいた。参加したスタッフもまた、日常の臨床で作業・活動を提供する際はまた違うものが得られたであろう。

「認知症と自動車運転の相談コーナー」で参加

恵寿総合病院 高間 達也

今回、参加させて頂いたブースの中で、認知症と自動車運転相談コーナーを設置させて頂いた。一般の方を対象に自動車運転における、神経心理学的検査の体験や法律の説明を行った。

恵寿総合病院では、脳血管障害患者に対して自動車運転再開支援を行っている。その中で、神経心理学的検査や実車評価とともに、自動車運転死傷処罰法の説明や、運転再開時の公安委員会での手続き方法を指導している。患者や家族からは、法律や手続きについて「知らなかった」との声を聞くことが多い。

今回の介護フェスタに参加された、一般の方からも同様の声が聞かれた。また、実際に家族の中で運転が危険と感じる家族がいるかを尋ねると、「家族の自動車運転が危険であると感じることが増えてきた」「何度も車をぶつけている様子で、免許を返納してほしい」と思っている家族の声も聞かれた。これに対して、実際は家族の思いと反し、「返納を言い渡されると思っていたが、公安委員会での更新を行ってきた」と、家族の苦悩を聞くこともあった。

今回の介護フェスタで、一般の方からの意見を聞く事が出来た。その中で、「認知症」「脳血管障害患者」については知られるが、その方達の生活を営む上での自動車運転については、ほとんど知らない状況であると印象を受けた。介護フェスタに参加させて頂き、生活行為をマネジメントする作業療法士が、法律や手続きを理解し、患者や家族に適切に伝える必要性を改めて感じる貴重な体験となった。自動車運転の可否を決めるのはあくまで、公安委員会であるが、患者および家族、さらには一般市民が安心して暮らすことのできる自動車社会に、作業療法士が寄与できる機会は増えてくると考える。今後も、介護フェスタなど一般の方に対し、啓発活動も継続して行く必要を感じた。



会員が語る



第30回石川県リハビリテーション風船バレーボール大会が無事終了した。当院では週に1回約2時間の練習を行っている。20名程度のメンバーを3チームに分け、3つの円陣でのパス練習より始めている。

集中が続かなかつたりよそ見をしたり相手の受けの態勢を確認せず無責任なパスを送りパスがつかないようなメンバーであっても3チームが競い合ったり皆で珍プレーに笑いあったりする中で集団の真剣な雰囲気や自身の気づき、他メンバーの指摘により少しずつうまくなっていく。

精神科のメンバーの場合、単なる風船のキャッチ

先輩が語る

かないわ病院 曾我部秀宣

ボールでも大事な意味があり、まして相手が取りやすい返球を考えてパスするというのは素晴らしいスキルだと思う。コミュニケーションにも通じるし社会で生活していく上では欠かせない能力ではないだろうか。試合中にはチームメイトに注意されたり、過度に期待されるなど、家庭や職場内の人間関係にも通じる縮図がある。前衛・後衛・つなぎの役割等、楽しむことを根本に役割を自覚し皆で支え合ってチームの目標を目指せるメンバーらは退院に向かい、外来での参加者としてチームに加わっている。

多くの新人の皆様も自分の施設にて伝統ある風船バレーボールを展開していただき、集団活動として様々な意義や目的を持たせて取り組んでみてはいかがでしょうか。

施設紹介

志賀町デイサービスセンター

山口 里美

はまなす会は「すべての人に笑顔と安心を」を理念に掲げ、特別養護老人ホームはまなす園を中核にデイサービス、ショートステイ、グループホーム等さまざまなサービス事業所を運営する社会福祉法人です。

その中の一つである志賀町デイサービスセンターは海と山に囲まれた志賀町の中心部にあり、町内で唯一のリハビリテーションを提供している通所介護事業所です。建物は平屋建てで明るく広く開放的な空間と、廊下続きにショートステイ(20床)を併設しています。通所事業は指定通所介護(定員35名)認知症対応型通所介護(定員12名)からなり、日曜日と元旦を除いて営業を行っています。



前列中央、OT山口さん

デイサービスセンターには機能訓練指導員がOT(常勤1名)PT(常勤1名・非常勤2名)、看護師が配置され介護職員を含めてスタッフ約30名がおり、多職種との連携を図りながら毎日楽しく働いています。通所介護個別機能訓練加算Ⅱ、予防通所介護運動器機能向上加算、認知通所介護個別機能訓練加算をそれぞれ算定し、集団体操や手工芸などの個別活動をはじめ、個々の身体状態に応じた日常生活動作訓練、数種類の機器を利用したパワーリハビリ等を提供しています。

当事業所を利用している全体の25%が認知症自立度Ⅲa以上、30%が要介護3以上で、年齢も62歳から100歳までと幅広い年齢層の方々です。その方々が可能な限り在宅での自立した生活が続けられるようにリハビリを通して支援しています。また、退院直後から10年以上の長期に渡って利用されている方もおります。

今年の7月に10周年の節目を迎え、利用者様からの『今日も楽しみにデイサービスへ来たよ』『ありがとう。また、ここへ来させてね』との温かい言葉を励みとし、これからも在宅での自立した生活を目標にまごころを込めたサービスの提供をしていきたいと思えます。

各支部支援活動状況

金沢東支部

金沢大学附属病院 堀江 翔

平成28年度の第2回の事例検討会を10月21日(金)に金沢大学病院にて開催した。参加者は25名、事例検討は6題であった。急性大動脈解離術後の脳梗塞や、脊髄損傷を呈した統合失調症患者など、複数の疾患を合併した報告もあり、幅広い知識が求められる会であった。また、発達分野での発表もあり、普段とは違った視点での報告はやはり新鮮であった。こういった幅広い疾患の検討や他分野の交流も積極的に作っていききたい。

金沢西支部

公立つるぎ病院 笛山 卓弘

今回、金沢西支部第2回事例検討会を岡部病院にて開催した。参加者は23人(認定OT3人)、事例演題は3演題であった。事例発表では身障、精神分野それぞれの発表がありいろいろな意見を聞くことが出来る場となった。また1事例に対して質疑応答の時間を十分にとれアドバイスを頂く機会となり発表者にとっても改めて事例の事を考える機会となったと考える。

次回は研修会と事例検討会を2月開催で予定している。詳細については適宜、公文書・ホームページにて掲載予定なので皆様の積極的な参加を期待している。

能登支部

和光苑 福井 朱美

去る10月28日(金)18時30分より町立富来病院にて第2回能登支部事例検討会を開催した。参加者は、周辺施設の方の参加もあり計32名であった。発表者は5名で一人20分の時間を設けたことで積極的な質疑応答がなされた。次回は平成29年2月4, 5日(土・日)に能登小牧台で研修会と事例検討会を開催予定である。研修会はりハビリ型就労スペース「リハス」の藤島健一氏にご講演頂く予定であり、積極的な参加をお待ちしている。

加賀支部

葵の園・丘の上 清水 彩香

10月19日(水)18時30分より芦城クリニックにて症例検討会を開催した。学生を含む33名が参加し、学会に向けての発表を含め8症例の報告があった。報告では病識が低下した透析患者に対し、他職種と連携することでサービスが広がった事例や骨折の症例が料理を媒体に新たな地域交流の獲得に至った事例などがあった。次回は平成29年2月19日(日)、金沢福祉用具情報プラザの安田秀一氏を招き「福祉用具の選定・使い方の伝え方(仮)」と題した研修会と第3回事例検討会を開催予定である。

会員が語る

新人紹介

やわたメディカルセンター 南 優花



皆様こんにちは。やわたメディカルセンター、南優花と申します。作業療法士として、やわたメディカルセンターに勤務し始めて約半年が経ちました。少し業務にも慣れてきましたが、勉強の毎日です。学生の頃あまり考えることのできなかった患者様の生活全体を捉えることの大切さを実感し、苦戦しながらも奮闘しています。

私は愛知県にある日本福祉大学に4年間通っていました。大学では4年次にCI療法について研究を深め、卒業論文を作成しました。CI療法を初めとする、HANDS療法や川平法、経頭蓋磁気刺激などの

ニューロリハビリテーションについて同じゼミの仲間と理解を深め、また、高次脳機能障害にも興味があり学習してきました。

大学で学んできたことを少しでも臨床の場で活かし、患者様に最善を尽くしたい思いで毎日接し、多くの患者様と関わっています。また、患者様にとっては私たち一人の作業療法士の関わりがこれからの人生において大きく影響してくると思われまます。患者様一人一人の生活に寄り添って、これから先の人生をよりよいものにして頂きたいと願いを込めて作業療法を提供していきたくと思います。

まだまだ知識も技術も未熟ですが、丁寧で熱心に指導して下さる温かい上司、先輩方に助けていただきながら初心を忘れず、皆様から愛される作業療法士となれるよう患者様と関わっていきたくです。

現職者選択研修会「身体障害部門」に参加して

芳珠記念病院 寺内 伽恵

9月25日に現職者選択研修会が開催され、参加させて頂いた。講義では、急性期・回復期・施設・訪問の作業療法について学び、大変参考になった。作業療法士が中心となって対象者の生活をマネジメントすること、地域の特性を理解し、人として対象者が望んでいることを支援していくことの大切さを改めて感じた。各講義で事例紹介も組み込まれていた為、作業療法士の介入により生き生きと変化する対象者をイメージしやすく、有意義な講義だった。

グループワークでは1事例の目標・プログラム立案、施設・訪問スタッフへの申し送りを行った。実際に施設・訪問スタッフに申し送るようにグループでまとめたことを発表し、介護分野へ繋げる際の留意点を学ぶことができた。また人に自分の考えを伝える良い機会となった。

今後は、この研修を活かして対象者が生き生きと暮らすにはどうすべきか考えながら、知識を身につけ、それを周囲に発信する力を身に付けていきたい。



平成28年度 公益社団法人石川県作業療法士会 ◆◆◆第3回連絡会議 議事録◆◆◆

1. 日時：平成28年9月29日(木) 19:00～21:20
2. 場所：西泉事務所
3. 出席理事：進藤、寺田、東川、安本、麦井、岡田、大西、明福、村田、小池、渡邊、寺尾、河野、西村、高多、川上、井上
4. 議事
 - 第1,2,4,5号議案
 - 【学術部】 麦井) 来年度石川県学会の6月開催及び学会誌原稿締切日について報告。
 - 【教育部】 今年度OT協会生涯教育研修会に川上理事の参加決定。
 - 【認知症予防委員会】 岡田) 「認知症予防のヒント」パンフレットについて前作との変更点等を報告。
 - 【事務局】 東川) 委員会の新設検討について、認知症・災害・自動車運転・地域包括ケア会議・特別支援教育への対応を組織化する方針、およびMTDLP研修会を教育部・学術部・各局事業の担当とする方針の確認。
 - 【財務部】 安本) 会費納入状況報告(正会員会費未納者:29名、賛助会員会費未納:6件)。会議費規程の報告。
 - 【企画部】 小池) 第30回石川県リハビリテーション風船バレーボール大会の表彰企画等について報告。

第3号議案：第16回東海北陸学会について

寺田) 学会ホームページ進捗状況等の報告。

次回の学会事務局会議は10月20日、実行委員会は10月27日に石川県リハセンターで実施予定。

第6号議案：その他

進藤) 三士会合同連絡会の報告。1月22日に七尾市でモデル事業開催予定。

東川) 金沢市総合支援事業について報告。

寺田) OT協会50周年式典(9月25日)の報告。

インフォメーション

詳細などは随時HP等で
お知らせします。
ご確認ください。

社会福祉部研修会 「補装具研修～車椅子を中心に～」

日 時：平成29年1月21日(土) 13:30～
場 所：石川県リハビリテーションセンター
「ほっとあんしんの家」

講師：
石川県身体障害者更生相談所 清光百合子氏
石川県リハビリテーションセンター 寺田 佳世氏

地域包括ケアにおける リハビリテーション

日時：平成29年1月22日(日) 10:00～12:30
場所：フォーラム七尾(パトリア4階)
申し込み先：
石川県作業療法士会Webより
(締め切り平成29年1月13日(金)正午)

在宅支援部・病院医療部合同研修会 「診療報酬・介護報酬改定研修会」

日時：平成29年3月25日(土) 13:00～
場所・講師：調整中
申し込み先：
石川県作業療法士会Webより



KINJO UNIVERSITY

社会福祉学部
社会福祉学科
社会福祉専攻/こども専攻

医療健康学部
理学療法学科
作業療法学科

看護学部
看護学科

大学院
リハビリテーション学研究所
リハビリテーション学専攻(修士課程)

金城大学大学院
リハビリテーション学研究所 リハビリテーション学専攻(修士課程)

- ◆次世代リーダー養成のための実践力を高める教育体制
- ◆就業しながら学べる昼夜間講制・長期履修制度
- ◆授業料や奨学金制度など経済的負担にも配慮

金城大学
〒924-8511 石川県白山市笠間町1200番地
TEL.076-276-1400 (代表) FAX.076-275-4316
http://www.kinjo.ac.jp/ku/



在宅ならではの
深い関わりが持てる!!
「退院後の人生を支えたい」
そんな想いで介護の業界に入
りました。お客様とじっくり
関われる今の環境にやりがい
を感じています。

デイサービス 太陽のリゾート白山
管理者(作業療法士) 中富 博久

↓こちらの事業所で募集中です↓

金沢市、野々市市、白山市の
◆デイサービス ◆訪問リハビリ(有料老人ホーム内勤務)

正社員 月給…270,000円～、時間…8:30～17:30または 9:00～18:00
休日…週休2日(シフト制)、賞与年2回、社会保険完備、退職金あり

パート 時給…2,000円～、時間…1日2時間以上
勤務…1ヶ月の勤務回数応相談、労災あり ※時間に応じて雇用保険・社会保険加入

共通 昇給年1回、交通費あり、各種資格手当、日/祝出勤手当、OJT制度

株式会社 サンウェルズ
SUNWELLS GROUP
金沢市、白山市を中心に16ヶ所の介護施設を運営しています。
<お問合せ> 株式会社サンウェルズ本社 人事部：東(ひがし)
☎076-272-8982

賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
学校法人阿弥陀寺教育学園
医療法人社団和宏会

C会員

粟津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈豊会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生生会えんやま健康クリニック
医療法人社団千木福久会
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団同朋会
医療法人社団中田内科病院
医療法人社団洋和会

医療法人社団輪生会
医療法人積仁会
金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
公益社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団博洋会
医療法人社団持木会柳田温泉病院
医療法人社団博友会
医療法人社団光仁会
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
株式会社半田
株式会社ヤマシタコーポレーション金沢営業所
セントラルメディカル株式会社
三星自動車販売株式会社
株式会社メディベック
株式会社サンウェルズ

D会員

医療法人社団あいずみクリニック

会員動向

石川県作業療法士会員数 758名(平成28年12月16日現在)
認定作業療法士 32名

編集後記

時代の流れをいかに読むか、私の勤める施設も大きく業態を変える方向となった。他の施設でも大手の資本が入り買収が入ったりしたという話も耳にするようになった。OTとして勤めることはもちろん、経営的な感覚を育むこともきっとこれから求められてくると思うこの頃である。次期の報酬改定までわずかだが良い方向に改定されるよう行動を起こさねばと、新年に向けて小さな事から始めようと思った、申年の師走であった。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：明福真理子、酒野直樹、入江啓輔、藤田隆司、杉浦有子、寺井利夫、川口朋子、谷内香織、橋本実、小川正人、買手登美子、平木咲代子、福井清美、前田勝也、中寺智也、山本真一郎、山崎佳子、川口日和、伊関浩克、山田ともみ、田中明、犬丸敏康

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：進藤浩美 印刷：ヨシダ印刷株式会社